

サポーターさんへのお願い

- ◎ 支えあう地域づくりにご支援くださる方
- ◎ 絆の会の活動を財政的に支援してくださる方
(1口2,000円以上 寄附金控除の対象となります)

絆の会支援金振込先：郵便振込
口座番号 00580-3-056986
加入者名 社会福祉法人絆の会
(専用の振込用紙を用意しております)

皆様からお寄せいただいた支援金は、法人の運営資金に充てられるほか、当事者活動・ボランティア活動支援などに有効に使わせていただきます。

サポーターになってくださった皆様には…

- 絆の会広報誌「ハートレター絆」を年5回お届けし、会の活動をお知らせします。
- 絆の会の行事やサポーターの皆様向けの事業所見学などご案内します。

絆の会事業所

◆「社会福祉法人絆の会」は障害のある方のニーズに合わせ、市内に8事業所を開設運営しています。

働く場 (就労継続支援B型・就労定着支援事業所)
悠友ハウス 長野市若里 3-14-23
信州そば工房きずな 長野市柳原 659-1
あんだんて 長野市篠ノ井布施高田 832
びーんず 長野市篠ノ井御幣川 1233-1

住む場(グループホーム)
リアン松岡 長野市松岡
みらいコーポ稲葉 長野市稲葉

生活支援 (地域活動支援センター・相談支援事業所)
オレンジ若里 長野市若里 4-5-28
絆の会相談室 長野市稲葉 15-7

◆事務局

〒380-0928

長野市若里三丁目14番23号

社会福祉法人絆の会

TEL 026-226-6045

FAX 026-262-1262

E-mail houjin@kizuna-nagano.or.jp

<https://www.kizuna-nagano.or.jp/>



精神障害がある方の地域生活を支援する

社会福祉法人 絆の会

サポーターのお願い

ひとつの喫茶店の運営から始まった
人の集まりが いつのまにか
大きな人の輪になりました
病気や障害のこと 生きている意味や働く意味
友だち・家族の存在 どんな社会が暮らしやすいか
どんな人生を送りたいか 障害があってもなくても
語り合える仲間 それが絆
あるがまま 自分らしく 主体的に生きていこう
私たちの住む地域はきっとやさしい町になる
当事者を中心に 家族 ボランティア 職員
みんなで 話し合って 話し合って
話し合って 創ってきた
それが私たちみんなの『絆』です

あなたの力をお貸しください！

絆の会は、精神に障害のある方々を地域で支える制度や資源がほとんど何もなく 1988 年に、当時の精神保健福祉センターの支援の下、ボランティア、家族、支援関係者などが集まり精神障害者の働く場・憩いの場である「喫茶りんどろ」を開設したのが始まりです。

その実践から、障害のある人たちが地域で自分らしく安心して暮らしていくために必要な「住む場」や「憩いの場」づくりなどを多くの方々の善意と熱意で創ってきました。

現在、就労支援、グループホーム、相談支援など 8 事業所を運営し様々な活動を展開しています。30 年余の活動の中では、そこから巣立って一人暮らしや一般就労へと歩みを進めている人もいます。これからも、障害がある人もない人も一人の人間として理解し助け合って、誰もがその人らしい人生を送れるような地域づくりを目指していきたいと考えています。

どうか、絆の会の活動にご賛同くださり、支援の輪に加わってくださいますようお願い申し上げます。



◆ 絆の会を支えているのは、当事者を中心に、家族、ボランティア、スタッフの 4 本柱、そして広範なサポーターの皆様です。

ボランティア



かがやく当事者

絆の会にはグループホームで 20 年間お世話になり、現在は一般のアパートに住んでいます。部屋では植物のゼラニウム、ローズマリー、セダムを育てています。植物は部屋の雰囲気をよくしてくれます。また、オレンジ若里で人の輪の中にいることができ、心の安定につながります。



いきいき家族

家族会ではよく歌を歌います。楽しい歌、懐かしい歌等、大きな声でみんなと歌うと嫌なことも忘れ、穏やかな気持ちになれます。おしゃべり会では、なかなか話せない悩みや不安などを出し合ったり、時には趣味の話や健康の事、料理の話へと広がり、思わず身を乗り出し聞き入ってしまう事も…家族会で出会った人とのつながりが元気のもとであり、癒しになっています。



絆の会の 4 本柱の声



はつらつボランティア

障害のことは意識せず構えることなく、当事者の皆さんと一緒に仕事をさせてもらっています。退職して家の中に籠らずに、人と会えるありがたい機会です。作業が終わって事業所に戻り、おしゃべりをしながらランチと一緒に食べる時間は、ひと汗かいたご褒美で楽しく過ごしています。

前向きスタッフ

日頃、何かをしようとしたとき、何かに気づいたとき、疑問に思ったとき、自分よがりの考えになっていないだろうか？ 実際、当事者の方達はどう思っているのだろうか？ と立ち止まり、声を聴き、利用者の力のすごさを感じながら一緒に取り組み、困難を乗り越え、喜びもかみしめながら歩んでいきたいです。

